

あしがき

日頃から本校の教育活動に御指導と御支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。

さて、本校は20年の歴史と伝統を礎に平成27年度からスタートした第7次研究では、「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」を研究主題とし研究を進めてまいりました。これは、第6次研究で行われた調査研究の事例で共通していた内容である「コミュニケーション能力の不足」「生活にかかわる問題」をどのように解決し、卒業後の社会生活へスムーズに移行できるのかを踏まえて設定されたものです。

本年度の研究では、1、2年次の研究の成果と課題を受けて、課題研究やプロジェクト研究、調査研究や寄宿舎研究など、4つの研究の形態に分かれて、研究グループを編成し、検証・検討・改善・実践を行ってきました。

本校が協同学習に取り組むきっかけは、進路指導を進める上で課題となっていたコミュニケーション能力や人と関わる力を高めるためでした。そして、「協同学習」という学習手法を取り入れて全員が授業研究を行ったことにより、協同学習の手法に対する教職員の理解は浸透し、生徒のコミュニケーション能力を向上させることができました。

3年間の研究を終え、今後の教育活動への道標となる成果と課題が明らかとなった今日、その成果を本校に学ぶ生徒への指導・支援の在り方に結び付けていくことが、今後の私たちの使命であると考え、「協同学習」についての成果を「知的障がい教育におけるキャリア発達を促す協同学習の実践」としてまとめました。

今後も、生徒一人一人が卒業後の社会生活に対して夢や希望をもち、充実した生活を送れるよう研究を推進していきたいと思っております。そして、信頼される学校づくりを行うために、本冊子を御精読いただいた皆様方から、本校の研修に対しまして、御指導、御鞭撻をいただければ幸いです。

平成30年3月

北海道今金高等養護学校

教頭 業 天 誉 久